

# 災害時学校支援チームみやぎ (MIRAI) について (宮城県)

## 1. チームの概要及びこれまでの取組

チーム設置の目的	大規模な災害の発生に伴う、被災地において予想される学校教育の混乱の解消に向けて、被災自治体の要請に基づき、教育復興を支援すること。
設置年月	令和元年12月
派遣実績	令和6年能登半島地震の際に、石川県鳳珠郡能登町に18人を派遣し、主に東日本大震災の経験を踏まえた助言や児童生徒等の学びの継続に関する支援を実施した。
チーム員数 (R7年12月時点)	217名 (内訳) 教諭137名、主幹教諭42名、養護教諭15名、学校事務職員8名、栄養教諭2名 実習助手2名、指導主事等11名
チームの特徴	東日本大震災において被災した際に受けた支援に対する恩返しと、被災した経験や教訓を次の世代に繋ぐことが、チームの設置からこれまでの活動の原動力となっている。

## 2. 今年度の新たな取組

(1) 今年度の取組の目的 (委託事業の申請の目的)

- 未設置県への設置に向けた支援を行い、近隣県等の連携と強化を図るため
- MIRAIの設置から7年が経過し、研修内容が固定化の傾向にあることから研修内容の検証と見直しを図るため

(2) 新たに実施した主な取組

- 研修会の公開
- 災害時学校支援チームの情報交換会 (東北版 D-EST) の開催
- 兵庫県震災・学校支援チーム「EARTH」の視察
- 災害時学校支援チームおかやま養成講座の視察
- 石川県能登町教育委員会等の訪問
- 推進会議の開催

◇「未来へつなぐ学校と地域の安全フォーラム」でMIRAIの活動の周知

(3) 取組の成果

- 対面式の研修 (養成・フォローアップ・スキルアップ) の内容・運営を公開し、8自治体からの視察を受け入れる
- 9県が参加して意見交換会をオンライン実施した。未設置県の課題の共有、課題への対応・解決方法の情報を提供する場を設けることができた
- 研修の見直し・改善
  - ・震災時、震災後を伝えることができるチーム員を目指す
  - ・チーム員の平時の取組を活性化
  - ・支援を受ける側の視点
  - ・派遣職員の心のケアや被災地で起こりえる事例等を学ぶ⇒4つのポイントを踏まえて改善

## 3. 今後の展開

- (1) 支援チームの活動内容の共有・周知、情報発信
- (2) 研修内容の不断の見直し、チーム員に必要な資質能力・スキルの整理

